

新編

# 宮沢賢治詩集

天沢退二郎編

新潮文庫

みや ざわ けん じ し しゅう  
新編 宮沢賢治詩集

新潮文庫



平成三年七月三十日発行  
平成七年十月二十五日十二刷

編 者 天 沢 退 二  
あま さわ たい じ

發 行 者 佐 藤 亮 一 郎  
さと とう りょう いち ろう

株式会社 新潮社

郵便番号

東京都新宿区矢来町一六二

電話編集部(03)3266-1544  
読者係(03)3266-1511  
振替 〇〇一四〇一五八〇八

価格はカバーに表示しております。

乱丁・落丁本は、二面倒ですが小社読者係宛て送付  
ください。  
送料小社負担にてお取替えいたします。  
付

印刷・二光印刷株式会社 製本・株式会社植木製本所

© Taijirō Amazawa 1991 Printed in Japan

ISBN4-10-109207-9 C0192

新潮文庫

新編 宮沢賢治詩集

天沢退二郎編



---

新潮社版

4612



目

次

『心象スケッチ 春と修羅』より

序

一九

屈折率

(一九三)、一、六) .....二四

くらかけの雪

(一九三)、一、六) .....二五

恋と病熱

(一九三)、三、二〇) .....二六

春と修羅

(一九三)、四、八) .....二七

春光呪詛

(一九三)、四、一〇) .....二八

谷

(一九三)、四、二〇) .....二九

真空溶媒

(一九三)、五、一八) .....三〇

蠕虫舞手

(一九三)、五、二〇) .....三一

小岩井農場

(一九三)、五、二二) .....三二

(パート一)

二二

(パート二)

二三

(パート九)

二四

報告	（一九三、六、二五）	六
岩手山	（一九三、六、二七）	六
高原	（一九三、六、二七）	六
原体剣舞連	（一九三、八、三）	究
東岩手火山	（一九三、九、一八）	七
永訣の朝*	（一九三、一、二七）	八
松の針	（一九三、二、二七）	九
無声慟哭	（一九三、二、二七）	九
白い鳥	（一九三、六、四）	九
青森挽歌	（一九三、八、一）	一〇
風景とオルゴール	（一九三、九、一六）	一六
一本木野	（一九三、一〇、二八）	一〇
冬と銀河ステーション	（一九三、三、一〇）	一三

「春と修羅 第二集」より

序

三七

二 空明と傷痍	一九四、二、二〇	一三
一六 五輪峠	一九四、三、二四	一三
一九 晴天恣意	一九四、三、二五	二六
〔一九〕 塩水撰・浸種	一九四、三、三〇	一四
二五 早春独白	一九四、三、三〇	一四
六九 「どろの木の下から」	一九四、四、九	一四
七五 北上山地の春	一九四、四、一〇	一四
一一八 函館港春夜光景から	一九四、五、九	一四
一五一 林学生	一九四、六、三	一四
一五六 「この森を通りぬければ」	一九四、七、五	一六
一五八 「北上川は笑氣をながしイ」	一九四、七、五	一四
一六六 蕤露青	一九四、七、七	一七〇
一七九 「北いっぱいの星ぞらに」	一九四、八、七	一七

三〇四	〔落葉松の方陣は〕	一九四、九、七	一七六
三一三	産業組合青年会	一九四、一〇、五	一七九
三一四	〔夜の湿氣と風がさびしくいりまじり〕	一九四、一〇、五	一八一
三一九	〔野馬がかってにこぐへたみちと〕	一九四、一〇、二六	一八一
三二〇	〔うとうとするとひやりとくる〕	一九四、一〇、二六	一八一
三二八	異途への出発	一九五、一、五	一八三
三二三	曉穹への嫉妬	一九五、一、六	一八八
三五六	旅程幻想	一九五、一、八	一九〇
四〇一	水質の冗談	一九五、一、八	一九三
四一一	未来圈からの影	一九五、二、五	一九四
五〇八	発電所	一九五、四、二	一九五
三二二三	遠足統率	一九五、五、七	一九七
三二七	国立公園候補地に関する意見	一九五、五、二	二〇〇
三六九	岩手軽便鉄道 七月（ジャズ）	一九五、七、九	二〇四
三七二	渓にて	一九五、八、一〇	二〇八

- 三七五 山の晨明に関する童話風の構想 ..... 一九五、八、二 ..... 一一〇  
 三八三 鬼言（幻聽） ..... 一九五、一〇、八 ..... 一一〇  
 三八四 告別 ..... 一九五、一〇、三五 ..... 一一〇  
 四〇三 岩手軽便鉄道の一月 ..... 一九六、一、七 ..... 一一七  
 「春と修羅 第三集」より

- 七〇六 村娘 ..... 一九六、五、二 ..... 一一一  
 七〇九 春 ..... 一九六、五、二 ..... 一一一  
 七一一 水汲み ..... 一九六、五、一五 ..... 一一一  
 七三五 飯宴 ..... 一九六、九、三 ..... 一一四  
 七四一 煙 ..... 一九六、一〇、九 ..... 一一五  
 七四一 白菜畠 ..... 一九七 ..... 一一七  
 一〇〇三 実驗室小景 ..... 一九七、二、八 ..... 一一九  
 一〇一二 「甲助 今朝まだくらあに」 ..... 一九七、三、三 ..... 一一三  
 一〇一九 札幌市 ..... 一九七、三、二六 ..... 一一四  
 一〇三三 悪意 ..... 一九七、四、八 ..... 一一五

- 一〇五三 「おい けどばすな」 ..... 一九七、五、三 ..... 一九六  
一〇七五 曜語 ..... 一九七、六、三 ..... 一九七  
一〇八二 「あすこの田はねえ」 ..... 一九七、セ、一〇 ..... 一九八  
一〇一〇 野の師父 ..... 一九七、一 ..... 一四一  
一〇一二 和風は河谷いっぽいに吹く ..... 一九七、ハ、一〇 ..... 一四六  
一〇八八 「もうはたらくな」 ..... 一九七、ハ、一〇 ..... 一四九  
詩ノート より

- 七四四 病院 ..... 一九六、二、四 ..... 一四五  
一〇〇四 「今日は一日あかるくにぎやかな雪降りです」  
一〇一四・ローマンス ..... 一九七、三、四 ..... 一五六  
一〇五三 政治家 ..... 一九七、四、二 ..... 一五七  
一〇五四 「何と云はれても」 ..... 一九七、五、三 ..... 一五六  
一〇五六 「サキノハカといふ黒い花といつしょに」 ..... 一五〇  
一〇七一 「わたくしどもは」 ..... 一九七、六、一 ..... 一五一  
生徒諸君に寄せる。<sup>\*</sup> ..... 一五三

詩稿補遺　より

阿耨達池幻想曲	二五三
法印の孫娘	二七六
「こっちの顔と」	二八〇
火祭	二八二
牧歌	二八五
地主	二八九
境内*	二九一
「疾中」より	
眼にて云ふ	二九九
「手は熱く足はなゆれど」	三〇一
「丁丁丁丁丁」	三〇一
「風がおもてで呼んでゐる」	三〇一
夜	一九二九、四、二六
	三〇四

「文語詩稿」より

〔いたつきてゆめみなやみし〕……………三〇九

五輪峠……………三〇九

流水<sup>ガエ</sup>……………三一〇

〔夜をま青き蘭むしろに〕……………三一一

〔きみにならびて野にたてば〕……………三一一

〔林の中の柴小屋に〕……………三一二

雪の宿……………三一三

〔川しろじろとまじはりて〕……………三一四

〔血のいろにゆがめる月は〕……………三一五

〔玉蜀黍を播きやめ環にならべ〕……………三一六

母……………三一七

岩手公園……………三一八

早春……………三一八

旱害地帯	三九
岩頸列	四〇
「鶯宿はこの月の夜を雪ふるらし」	四一
巨豚	四二
〔堺のかなたに嘉菟治かも〕	四三
〔腐植土のぬかるみよりの照り返し〕	四三
田園迷信	四四
八戸	四五
〔ながれたり〕	五六
〔まひるつとめにまぎらひて〕	五六
雪峠	五七
国柱会	五八
祭日〔一一〕	五九
敗れし少年の歌へる	六〇

日出.....日出.....日出.....日出.....日出.....

日出

日出.....日出.....日出.....日出.....日出.....

- 牧歌（「種山ヶ原の夜」の歌〔三〕）……………三七  
星めぐりの歌……………三九  
大菩薩峠の歌……………三〇

注解・解説 天沢退二郎

三〇

新  
編

宮沢賢治詩集